

ユネスコスクール年次報告書

報告期間：2011年4月～2012年3月

国名：日本

※今年度の年次報告書は担当者の名前やメールアドレスなどは伏せた形で冊子やHP上で公表する可能性があります。また、ユネスコスクールの質の確保の観点から、報告書の内容が一定の基準に満たないもの、報告書が未提出の場合には、ユネスコスクールの認定取消を勧告させていただくことがありますので、あらかじめご了承ください。

1. 担当者

2. 学校概要

学校名 山陽女学園高等部

種別  保育園・幼稚園  小学校  小中一貫教育  
 中学校  高等学校  中等高等学校  
 教員養成  技術/職業教育  
 その他 ( )

住所 〒738-8504  
広島県廿日市市佐方本町1-1

E-mail : \_\_\_\_\_

Website : \_\_\_\_\_

児童生徒数：男子 \_\_\_\_\_ 名 女子 593名 合計 593名  
児童・生徒の年齢 15歳～18歳

3. 実施活動（下記から選択し、ESDについては活動した分野に○をして下さい。）

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- 持続発展教育 (ESD) ( 国際理解) 世界遺産 平和・人権 環境 気候変動 生物多様性 エネルギー 防災 食育 伝統文化 その他 ( )
- そのほか ( )

#### 4. 活動概要

1年間の主な活動内容について簡単に記載願います（欄が足りなければ、添付資料をつけていただいても構いません）。

##### 国際理解

☆毎年、留学生を受け入れている。（2011年度 6名）

ノルウェー・フィンランド・アメリカ・カザフスタン・フィリピン・韓国

☆留学生に正しい日本語を教育する。

☆授業・特別日本語授業・クラブ活動・行事などを通して日本人と留学生がお互いにコミュニケーションをとり国際理解を深める⇒日本を正しく理解してもらう⇒本国に帰った時、日本のことが正しく伝わる。

☆《高校生国際理解セミナー》 広島ユネスコ協会主催

日時：12月25日 場所：青少年センター

参加者：留学生3名+日本人学生2名が発表・他校の高校生も多数参加

活動時間について（下記から選択して下さい。）

通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）

時間外活動の時間を使用  ユネスコクラブの活動として実施

その他（ ）

今年度の活動結果について（下記から選択して下さい。）

大変効果的な活動ができ、大変満足。  効果的な活動ができ、満足。

効果的な活動ができず、やや不満が残る。

どのように活動を学校のプログラムに盛り込んだか記載願います。

①留学生の日本語の授業：毎週火曜日 2～3時間

②ESSクラブ：留学生と日本人の学生が英語を使いながら意見交換を行う。

③留学生の弁論大会での発表を全校生徒の前で披露

同年代の学生が『平和』について語ったスピーチを聞き、日本人の生徒も『平和』についての考えをまとめる。

今までの活動の中で、教育の質の向上に効果のあった活動がありましたら、記載願います。

☆国際社会に興味を持ち、1年間の海外への留学に出かける生徒が毎年出る。

・2011年度は 3名がアメリカへ留学中

・2012年度は 1名がアメリカへ、1名がハンガリーへ出発する予定

活動の内容を補完する以下の資料があれば添付願います。

紙媒体の参考資料（新聞、出版物など）  CD-ROM  写真

その他（ ）



本校は毎年海外からの留学生を受け入れ国際交流に努めている。

《世界から日本へ》

2011 年度受け入れ留学生

☆ 年間学生(4名)

カザフスタン：ヒロシマ・セミパラチンスク・プロジェクト招聘

ノルウェー：E F (Education First Japan) 交換留学

フィンランド：Y F U (Youth For Understand) 交換留学

フィリピン：Y F U (Youth For Understand) 交換留学

☆ 6 週間(1名)

アメリカ：Y F U J A F S (Japan & America Friendship

☆ 3 週間(1名)

韓国：文部科学省日本語専攻生

《世界平和弁論大会》スピーチ抜粋

アシクパエワ・アイダナ(カザフスタン)

『今、世界を考えることが次の世代に平和をもたらす』

平和とは何でしょう。私は平和とは自分の家族にハーモニーがあることだと思います。他の人々との争いを望まないなら、私たちは他の人に対しても自分の家族と同じように接しなければなりません。理解や助け合いや同情は平和の重要な部分だと思います。例えば、国家間の理解を進める方法の一つは留学することだと思います。私の子供の頃からの夢は日本に来ることでした。私は両親から佐々木貞子さんの話や広島、長崎の話しを聞きました。その時、広島、長崎とセメイ《カザフスタンのセミパラチンスクの州都であったが週の名前になった。ソビエト連邦の時代、480 回以上核実験が行われた。住民は何も知らされていなかったので、多くの被爆者、奇形児が生まれた》は似ていると思いました。私の住むセメイでは、40 年間核実験が行われました。私の母の姉も核実験の影響で亡くなりました。

私は今、福島の人々のことを思うとき、悲しくなります。原発事故の結果として、たくさんの人々が病気になるかもしれません。一番悲しいことは、放射能が次の世代にも影響することです。今の世代は核兵器や核実験によってもたらされた悲劇を忘れてはいけません。ずっと覚えておいて次の世代に平和について自分の思いを伝えなければなりません。未来は私たちに掛かっていると思います。今、平和活動をするのが次の世代の安全を守ると思います。

トゥッティ・ウーシパースト（フィンランド）

『広島で気づいた私の幸せ』

こんにちは。私はフィンランドから来たトゥッティ・ウーシパーストです。16歳です。私は戦争の苦しみを知らない世代のフィンランド人です。私は平和な環境の中で育つことが出来ました。だから、広島に来るまでは、戦争で人々に何が起きたのかははっきり知りませんでした。私にとっては余りにも遠い場所で、ずっと昔にあったことだからです。

でも、広島に来て、どんなに大変なことが起きたか分かりました。平和公園に行って資料館を見ました。そして原爆にあって生き残ることが出来た語り部から話を聞いたからです。当時の人々がどんなに痛み、その痛みが今も続いていることを知りました。町は破壊されました。家族が死にました。原爆の後遺症への恐れ、そんな中で人々は生きなければなりません。でも、最も私が衝撃を受けたのは、語り部の彼女がそんなに大変なことを経験したのに、何回も「It's OK. Now we are happy! 」と言ったことです。

その時私は泣きたくなくなりました。私は彼女のようなひどい経験をしたら、きっとそんな言葉は言えないと思います。

私には家族がいて、家があり、学校に行くことができ、1日3食を食べることができています。このことがどんなに幸せなことかよく分かりました。

アルダバ・カトリナ（フィリピン）

『歴史を通じて平和』

私が子供の頃、世界はもう戦争はなくなっていると信じていました。しかし、成長するにつれ、戦争のない地域は世界中どこにもないということが分かってきました。

フィリピンは今は独立した国家ですが、これまでに3度植民地になりました。最初はスペインに333年間も植民地にされ、たくさんの不正や虐待が行われました。ホセ・リザールという男の人が、武器ではなくペンと紙で戦いました。彼は平和を達成するためには武器ではダメだとわかっていたのです。2度目はアメリカに、3度目は日本の植民地にされました。しかしこの間、フィリピンだけではなく、日本には原爆が落とされるなど世界中の人々が戦争に苦しんでいました。

このように、フィリピンは苦勞してきたのですが、私は占領した国に対する悪口をめったに聞くことがありません。私たちは許すことを知っているからです。

私たちは前だけを見ていくべきです。一つの地球に住む私たちは平和に豊かに生活するという共通のゴールに向かって一緒に歩いていかなければなりません。それを達成することは簡単ではありませんが、過去にあったことお互いに憎しみ続けるならば、歴史は繰り返し、世界中が平和になることはないでしょう。もし私たちが一緒に歩いていけば、きっとゴールにたどり着くことができるでしょう。